

5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

5-2-1 教育改革 I C T 戰略大会

<事業計画>

各大学は、国の大学改革実行プランに沿って教育の質的転換に向けて、改革努力を続けている。例えば、三つのポリシーによる教育方針の明確化、カリキュラム・マップ・シラバス改善などの教育課題の体系化、成績評価の厳格化、アクティブ・ラーニングの組織的教育の実施、ポートフォリオ・I Rなどによる学修成果の可視化など、全学的な教学マネジメントの確立に着手したところである。しかし、これらの取り組みは制度・仕組みの整備であって、必ずしも教員個人及び教員間による教育内容の調整・改善に取り組む質的転換につながっていない。

そこで本大会では、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、社会及び世界から信頼される人材育成の内部質保証のあり方について、三つのポリシーの一貫性、整合性の面から探求することにした。

<事業の実施状況>

「教育改革 I C T 戰略大会運営委員会」を継続設置し、「教育改革 I C T 戰略大会」を実施した。以下に、委員会及び大会の活動を報告する。

教育改革 I C T 戰略大会運営委員会

4月26日、5月27日、6月14日、11月19日に平均8名が出席し、4回開催した。教育改革の基本的な課題やアクティブ・ラーニングにおける I C T（情報通信技術）の活用と効果、教育活動を振り返る情報環境システムの整備、新しい情報リテラシー教育の提案を中心に知識・理解を促進し、啓蒙・普及するため、「教育改革 I C T 戰略大会」の企画・実施準備を行った。

(1) 開催要項の策定

大会のテーマを「教育の質的転換に向けた内部質保証を考える」とした。各大学教育の質的転換に向けて三つのポリシーを設定するなど教育改革の制度設計が進められているが、教職員全体で教育活動を振り返り、改善を目指す行動が見られないことから、I C T活用も含む質保証の工夫を教職協働で探求する機会とした。

特に配慮した点は、一つは、質保証を進めていくために学位中心の授業科目編成に切り替えていくことの重要性を認識いただき、改革の制度設計に魂を入れていくことにした。

二つは、アクティブ・ラーニングによる失敗事例から効果を高めるノウハウを共有することと、文系・理系・医療系分野での I C Tを活用したアクティブ・ラーニングの取り組みと課題を共有することにした。

三つは、地域連携活動の中で獲得した知識・技能を活用するP B L教育の工夫を紹介するとともに、ネット上で知識を組み合わせてアクティブ・ラーニングする分野横断型授業モデルについて、医学・歯学合同委員会から提案することにした。

四つは、質保証としての I R導入の現状と課題及び I R活用の実際、I Rシステムのイメージと大学の体制等の対応を共有することにした。

五つは、情報教育委員会で検討している『価値の創出を目指した問題発見・解決思考の情報リテラシー教育モデル』の具体的な授業方略を説明し、大学として組織的に展開していくための教員間の連携、教材開発、評価方法などについて意見交流し、課題を整理することにした。以上、1日目に全体会、2日目にテーマ別意見交流を行うとともに、3日目にかけて大学・企業共同による I C T導入事例の紹介をポスターセッション形式で実施することにした。なお、開催要項は、次ページを参照されたい。

平成28年度教育改革ICT戦略大会プログラム

9月6日(火) : 全体会

9月7日(水) : テーマ別意見交流

9：50	開会挨拶 公益社団法人 私立大学情報教育協会 向殿 政男 会長	会場：3F富士
10：00	【教育の質的転換に向けた内部質保証の一體改革】 三つのポリシー（入学選抜・カリキュラム・学位授与）省令化による内部質保証の課題 三つのポリシーはほとんどの大学で定められているが、実際の教育活動との整合性・関係性が意識されていないことなども指摘されている。問題は、大学が掲げる育成すべき力を確実に身につけさせることは、入学者受け入れ方針を入口として、人材養成目的である出ロとしての学位授与方針と学位授与方針と学位内容へのP D C Aによる内部質保証の仕組みと理解が堅隣の課題となっている。 独立行政法人 日本国学術振興会理事長 安西 祐一郎 氏	会場：5階 大雪
11：30	【質保証を目指した試み】 学修成果の可視化と改善への取り組み 教育の国際標準化に向けた学修質保証システムを構築するために、アクティブ・ラーニングを中心とした学修成績の可視化を地域の産業界と協働して成績指標を開発し、ポートフォリオ、ステークホルダー調査、I Rなどを用いて多面的に教育改善に取り組んでいる。 共愛学園前橋国際大学 副学長 後藤 さゆり 氏	会場：5階 大雪
12：30	休憩	会場：5階 大雪
13：30	【アクティブ・ラーニングの効果を高めるノウハウ】 アクティブ・ラーニングの振り返りと課題 アクティブ・ラーニングが様々な分野で広がり、深化・発展していくとともに、これまで体験した失敗の原因と結果について振り返り、多くの関係者に授業設計するための留意点及び対策について「アクティブ・ラーニング失敗事例ハンドブック」として知識化を試みた。 名古屋商科大学 経営学部教授 亀倉 正彦 氏	会場：5階 大雪
14：30	休憩	会場：5階 大雪
14：45	【アクティブ・ラーニングを導入した地域連携教育】 地域と連携・地域を活用したP B L 教育の導入と効果 学問と社会のつながりを理解し、考え、行動できる「課題解決人材」の育成の一貫として、「地域」「社会」の現実的な課題をケーススタディとして取り上げ、ワークショップや学生主体による実践的な課題解決のアクティブ・ラーニング手法の開発推進に取り組んでいる。 信州大学キャリア教育・サポートセンター副センター長 林 婕人 氏	会場：5階 大雪
15：45	休憩	会場：5階 大雪
16：00	【知識の創造を目指したアクティブ・ラーニングの考察】 ネット会議による分野横断型P B L 教育の提案 健康社会の実現に貢献できる医療人を育成するため、多職種の視点を多面的に組み合わせる中で、最適な解決方法を考えるクリティカル・シンキングを中心としたP B L 学修が必要となり、多方面の有識者からの知見を教材にしてネット上などで知識の創造の創造を目指した学びのモデルを考察した。 本協会 学系別FD/ICT活用研究委員会委員、昭和大学 歯学部教授 片岡 龍太 氏	会場：5階 大雪
16：50	総括（教育改革ICT戦略大会運営委員会）	会場：5階 大雪
17：00	終了	会場：5階 大雪

10：00 ~ 12：30	【分科会：A】 ICTを活用したアクティブ・ラーニングの取り組みと課題 ～IR導入の取り組みと課題 ～IR導入の取り組みを客観的に把握し、大学が抱える教育活動の実態を客観的・体系的に分析し、その解決策を提言する仕組みとする問題を科学的に分析し、その効果・検証について認識を共有する。 人文・社会科学系 「大人数授業での双方向型アクティブ・ラーニング」 小樽商科大学 社会情報学科准教授 金子 元久 氏	【分科会：B】 教育を客観的に振り返るための情報環境整備 ～IR導入の取り組みと課題 ～IR導入の取り組みを客観的に把握し、大学が抱える問題を科学的に分析し、その効果・検証について認識を共有する。 人文・社会科学系 「質保証としてのIR導入の現状と課題」 筑波大学 大学研究センター特命教授 金子 元久 氏
12：30 ~ 14：00	【分科会：C】 「双向性遠隔教育システムを活用したP B L 教育」 岐阜大学医学部教授 丹羽 雅之 氏 東海大学教育研究所所長代理 理学部准教授 及川 義道 氏 医療系	「大学に求められるIR機能の実現に向けて～IR活動展開の課題と学修成果の可視化」 京都光華女子大学 副学長、EM・IR部長 水野 豊 氏
12：30 ~ 14：00	【分科会：D】 「アクティブ・ラーニングの評価方法」 創価大学総合学習支援センター長 関田 一彦 氏 経済学部教授 「ピア評価の導入効果と課題」 接南大学薬学部特任助教 串畠 太郎 氏	情報リテラシー・情報倫理分科会 分野別情報教育分科会
12：30 ~ 14：00	情報文交会	※参加費 別途4,000円が必要です。 会場：4F鳳凰
12：30 ~ 17：00	大学・企業連携によるICT導入・活用事例（ポスターセッション） アクティブ・ラーニング、LMSシステム、ポートフォリオシステム、I Rシステム、数学マネジメントシステムなど	会場：5F廊下

(2) 実施結果

9月6日から8日の3日間、東京市ヶ谷の私学会館を会場に、155大学、13短期大学、賛助会員13社が参加し、発表者を含めて441名が参加した。以下に全体会、テーマ別自由討議で確認された主要な点について報告する。

[全体会で確認された主要な点]

- ① 3ポリシーは9割以上の大学で設定しているが、教育活動と連動していない例が多く見られる。教育の質的転換を全学的に展開していくには、教員一人ひとりが理解し、教学マネジメントに関われるようになることが喫緊の課題であることが認識された。
- ② アクティブ・ラーニングを中心とした学修成果の可視化を行うため、地域の産業界と成果指標を開発して、eポートフォリオの活用、IRなどにより多面的に教育改善に取り組んでいる仕組みが確認された。
- ③ アクティブ・ラーニングの失敗事例から、学びが能動的でない、学びがない、教員が近視眼的になり将来構想力が欠如しているという共通の要素があることが確認された。
- ④ 多面的視点から問題を整理し、多職種の視点を組み合わせる中で、最適な解決方法を見出すクリティカル・シンキングの学修方法として、ネット上で他分野の有識者から意見を集約し、それを踏まえてチームの解決策を作成する分野横断型のPBL教育モデルの必要性が確認された。

[テーマ別意見交流で確認された主要な点]

- ① IRに求められる機能としては、人件費が教育資源としてどのように使われているかなど、判断できるデータ解析の提供が求められる。IRの課題としては、問題認識が大学にないと機能しない、縦割り志向を見直すことが重要であることと、IRを担当する体制作りなどが山積していることが確認された。
- ② IR活動の事例として、早期退学者の防止対策、授業改革の点検などで活用しており、今後の展望として、入学から卒業まで学生一人ひとりをきめ細かく支援するエンロールマネジメントの実現を支えるためのIR、教育の質を担保するIR、経営戦略に寄与するIRの方向性が確認された。
- ③ 価値の創出を目指した問題発見・解決思考のリテラシー教育のモデルは、委員会の提案について多くの賛同が得られたことから、今後、具体的な授業の指導方法、教材作成、成績評価などについて委員会として検討を進めることになった。



5-2-2 短期大学教育改革ICT戦略会議

<事業計画>

地域人材の育成拠点を目指した短期大学教育の総合改革について、地域のニーズを捉えた教養教育の改革、職業教育のための基礎的な実務教育の改革など、短期大学教育の優位性の発揮を目指して、全国の短期大学を対象に「短期大学教育改革ICT戦略会議」を実施する。地域社会のニーズを取り入れた教育改革、ICT活用を含むアクティブ・ラーニング及び教学マネジメント体制の再構築などについて理解を深める。

<事業の実施状況>

「短期大学会議教育改革ICT運営委員会」を継続設置して、「短期大学教育改革ICT戦略会議」を実施した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

短期大学会議教育改革ICT運営委員会

4月20日、7月1日、11月29日、平成29年2月25日に平均6名が出席し、4回開催し、開催要項の策定、全体討議の運営、開催結果のとりまとめ及び次年度への対応について検討した。

(1) 開催要項の策定

実践的な職業教育を行う新たな職業教育大学が平成31年度に発足するとのことから、短期大学に大きな影響が及ぶことが想定されるため、最初に「新高等教育機関制度化の動向と地域人材拠点としての短期大学の役割」と題して、中央教育審議会での審議の動向を共有することにした。その上で地域人材の育成に向けた取り組みについて、ICT活用を含めた地方公共団体との連携、学修成果の可視化、地域連携教育の学修成果をスマートフォンで入力し評価に活用している仕組みと教育プログラムの改善の事例を紹介し、全体討議で「地域拠点としての短期大学のブランド化を考える」をテーマに、短期大学教育の強みの再点検、地域創生に向けた研究活動の活性化と教育活動の一体化などの視点で議論を展開することにし、以下の通り開催要項を策定した。

地域拠点を目指した短期大学教育のブランド化 平成28年度短期大学教育改革ICT戦略会議開催要項

日 時：平成28年9月7日（水）13:00～16:30

場 所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

【開催趣旨】

実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化について多々議論される中で、これを機会に短期大学教育としての強みをいかに発揮していくべきかが課題となっている。そこで、本会議では、地域人材の育成拠点を目指した短期大学教育の改革を実現するため、専門職業人材の育成、地域コミュニティ人材の育成、教養人材の養成機能の向上の観点から、短期大学としてのブランド化と地域社会との相互連携について探求する機会にしたい。

【開会挨拶】短期大学会議教育改革ICT運営委員会 戸高 敏之委員長

【講 演】「新高等教育機関制度化の動向と地域人材育成拠点としての短期大学の役割」
中央教育審議会実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会委員

安部 恵美子 氏（長崎短期大学学長）

審議会での議論、大学団体からの意見などの状況を報告いただき、地域人材育成拠点としての短期大学の重要性、役割・機能について確認し、短

期大学のブランド化に向けた方向性を提示いただく。

【事例紹介1】「地域に密着した人材育成の実践」

長崎短期大学副学長 川原 ゆかり 氏

長崎短期大学教学部長 中野 明人 氏

地域の中核的人材を育成するため、学外学修活動を教育課程の中核に位置づけ実践し、ICTの活用を含めた学修成果の可視化、地方公共団体・企業との連携、外部評価など、学長のガバナンス機能を強化した全学的な教育改革の取り組みを紹介いただく。

【事例紹介2】「『知識』を『知恵』に変える経験値教育の実践」

園田学園女子大学短期大学部 生活文化学科教授 垣東 弘一 氏

地域社会の多様な変化に対応できる人材育成を目指して、地域課題のプロジェクト科目と社会的役割を自覚する全学共通科目において、ICTを活用した評価システムを導入し、教室で学んだ知識が地域社会でどのように活かされているかを振り返る「経験値教育」の取り組みを紹介いただく。

<休憩>

【全体討議】「地域拠点としての短期大学のブランド化を考える」

長崎短期大学学長 安部 恵美子 氏

長崎短期大学副学長 川原 ゆかり 氏

園田学園女子大学短期大学部 垣東 弘一 氏

別府大学短期大学部学長 野村 正則 氏

講演、事例紹介を踏まえて短期大学のブランド化を図るために、教養教育、地域・社会のニーズに対応した教育、学士課程教育への接続教育および地域貢献の観点から、今後の教育改革の方向性を探る。

(2) 実施結果

参加者は、17短期大学、1高等専門学校から23名の参加があった。以下に確認できた主な点を報告する。

- ① 「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化」について、短期大学の強みは専門学校にない教養教育、大学教育にない地域に根差した職業人の育成を再確認した上で、地域人材育成拠点としての機能発揮であることが確認された。
- ② 地域に密着した人材育成の実践方法として、地域での学外体験活動を教育プログラムに位置付け、地域理解の促進、地域課題解決のために身に付けるべき専門分野の知識・技術の修得、コミュニケーション能力、計画立案力などの社会人基礎力の向上を図ることの重要性が認識された。
- ③ 地域連携でのアセスメントの方法として、スマートフォンなどを用いた地域住民からの評価を得て可視化する「経験値評価システム」が有効であり、地域との相互理解を短期大学としてどのように進めていくかが今後の課題として認識された。
- ④ 全体討議で確認できた主な点として、短期大学が地域と強い協力関係を持つには、単なる地域の教育機関ではなく、短期大学全体で地域の課題を積極的に解決する研究拠点の強化が必要である。地域に貢献していくないと地域社会が抱える子育て支援、食育活動の推進、高齢化、過疎化の問題に向き合えないことが認識され、今後は課題解決に多様な視点を持つ人材を中長期的視点で育成していくことが重要な課題として認識された。

なお、開催結果の詳細は、平成28年度事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。